

長畑ひろのり News vol.103



(C) 2013 Kohama Studio



市史、第5巻完成 マラソン大会の実績報告

四條畷市史第1巻は、昭和45年の市制施行を記念して昭和47年に刊行されたもので、市史と言うより町史に等しいのではないかと、そういう思いで私は、市制50周年には新しい市史を発刊して欲しいと、平成21年と26年の6月定例議会において、2度にわたり要望していました(参照：News vol.025&082)。その結果、市制45周年の3月31日に考古編が発刊されました。1冊2,500円と高価ですが、内容の伴った価格ですので購入し読んで頂きたいと思います。そして、次は50周年の民俗編を期待します。

1月24日、緑の文化園及び周辺道路において「第2回四條畷市マラソン大会」が開催されました。前身は「なわてミニマラソン大会」と称し、最長“5km”参加者400人程度で行われていました。しかし、四條畷市民もしくは本市在勤在学者のみを対象とした大会でありながら、3年前は安全を理由に大東市の深北緑地において開催されていたのです。私は開催地を含め納得できない点が多々あり、改善にとどまらず本市の良さを知って頂くために、他市より多くの方に来て頂くための手法の一つとして、最長“10km”のマラソン大会を本市内で開催するよう提案しました。そして、提案を受け入れて頂いたのがこの大会です。(参照：News vol.073)



また、今年初の試みとして、本市観光大使山口智光さん(以下「ぐっさん」)デザインのオリジナルTシャツが、10kmのランナーにプレゼントされました。

リニア同時開業が大阪を救う

一年前、私は四條畷市の起爆剤として、生駒市へのリニア駅誘致を訴え(参照：News vol.089) 選挙を戦いました。

リニア全線同時開業でなければ……

関西企業失う利益2.7兆円

アジア太平洋研究所の稲田義久・数量経済分析センター長は5日の関西財界セミナーで、リニア中央新幹線の東京-大阪間が同時開業しない場合、ビジネスチャンスが奪われるなどし、関西の企業が失う利益は2.7兆円に達するとの試算を公表した。

リニアは2027年に東京-名古屋間、18年後の45年に名古屋-大阪間が開業する予定だ。関西企業へのアンケートを基に、稲

アジア太平洋
洋
研
試
算

田氏は関西企業の約35%の営業利益が平均4%程度、押し下げられると推計した。関西全体では年間1500億円規模となり、18年間の合計は2.7兆円に上る。

リーマン・ショック前後の07年度と09年度で、関西企業の営業利益は2.7兆円程度減少しており、これに匹敵する金額だ。稲田氏は「営業利益の目減りは設備投資や雇用に響く。消費も冷え込み、同時開業しない影響は大きい」と指摘した。

私も10kmに出場
一般男子の部で
287位でした

当日、スタート時の気温は氷点下となり、何人参加して頂けるのか大変不安でした。しかし、多くの人に集まって頂き、結果として全体で約82%の方が完走されました。また、ぐっさんや宮川大助・花子さんも来られ、開



しかし、本市の起爆剤として利用する以上に事態はもっと深刻で、2月6日の読売新聞朝刊に上記記事が掲載されました。ただ、もう何十年も前から大阪に本社のあった多くの企業が東京へ本社移転を進めてきた中、リニア中央新幹線の東京-大阪間が同時開業することで書かれている試算どおりであったとしても、これまでに失われたものは2.7兆円どころではなく、もっと大きいかと思えます。

距離	種目	申込者数	欠席者数 (棄権者含む)	完走者数
2 km	ファミリーの部	900 (383組)	203 (87組)	697 (296組)
	小学男 4・5・6年の部	168	16	152
	小学女 4・5・6年の部	26	2	24
3 km	中学生 男子の部	104	22	82
	中学生 女子の部	43	7	36
10 km	一般 男子の部	825	127	698
	一般 女子の部	281	51	230
合計		2,347	428	1,919

会から閉会までおられました。特にぐっさんにはマイクを握って式典を盛り上げて頂いたりと、宮川大助・花子さんにはファミリーの部を走って頂くなど、参加者が楽しめる大会となりました。



毎月発行している“長畑ひろのりNews”を、約半年ごとに送っています。送付の必要な方は、送付先をFAXもしくはe-mailにてお知らせ下さい。

長畑ひろのり事務所 FAX 072-877-1280
e-mail sky@nagahata.jp

公式ホームページ <http://nagahata.jp>



3月定例議会における一般質問

3月定例議会では4問の一般質問を行いました。今号ではそのうち1問を報告し、残りは次号以降とさせていただきます。

・まちづくり長期計画について

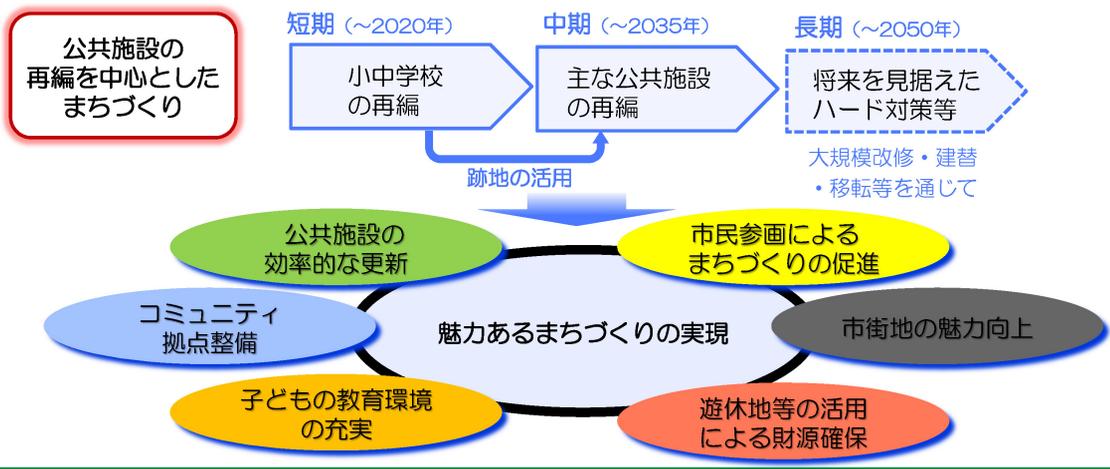
にすれば、大ホールを作っても集客は期待できる。ただ、人工地盤の工作物が建築基準法上の建築物にあたれば、建ぺい率の問題など諸条件をクリアしなければならぬ。それでも、駐車場の利用は市役所が平日、大ホールがほぼ土日祝日で、これほど効率の良い駐車場運営はない。・・・提案②
この2つの提案についてはどう考えるか。

四條畷市まちづくり長期計画（教育施設を含む） 策定に向けたまちづくり



まちづくり長期計画の検討内容 II

これからのまちづくりを進めるにあたり、まず小中学校の再編を行い、それにより生じた跡地を利用した公共施設全体の再編方針を取りまとめます。この再編を通じて、限られた財源で市民にとって魅力あるまちづくりを進めます。



【長畑質問】 中期計画では、2035年を目途に主な公共施設の再編をするとのことですが、具体的な内容は。

【行政答弁】 「まちづくり経過報告会」にて、現市民総合センター用地は市役所機能を有した施設への再編案、現四條畷小学校用地は福祉・教育総合施設への再編案と説明をしており、あくまでも、主な公共施設の集約化の方針。

【長畑質問】 私は昨年の9月定例議会の中で、中期計画についての考えを述べた。

その時の内容は、閉校後の四條畷小学校を何もせずそのままにして欲しくないとの質問には、着手時期が早まる可能性を模索する、と答弁され、また、新小学校を将来的には中学校にして欲しいの質問には、中学校利用を想定した整備は困難、と答弁された。(参照: News vol.098)

その後、私自身も考え抜いた末、新小学校を中学校にできないのであれば、将来的に、私の持論で早ければ2030年だが(参照: News vol.095)、それ以降には西部地域に中学校は1校で可能。そうなれば**中学校を西部地域の中心に建設するのは当然で、現四條畷小学校用地がベスト**と考える。しかし、中学校としては敷地面積が不足するので、西側に隣接する土地の買収も必要。・・・提案①

また、**現四條畷西中学校用地には、市役所と大ホールのある市民総合センターを建設する**。立地条件もサンアリーナと隣接し、複合施設として一体で利用できる。国道も2本接しており、国道の高さまで人口地盤を作りその下を全て駐車場

国道163号を中心とする考え方は変わっていないと判断している。私の提案も、そこは守っており検討して頂きたい。

また、短期計画が終わってから中期計画を考えるのではなく、今からしっかりと中期計画を立てた上で市政運営を行うことを要望する。

★ 河島亜奈睦さん ★

coffee break



☕ 3月3日、本市にお住まいで河島英五さんの次女“河島亜奈睦さん”が、本市のためにお役に立ちたいと言うことで、一緒に市長室へ表敬訪問しました。今後は、市内各所で行

われる行事等でお会いされることも多くなると思いますので、皆様の応援を宜しく願います。☕ 4月13日、英五さん没後15年追悼アルバムが発売されました。レコーディングは本市観光大使“角淳一さん”のスタジオ、ジャケット(左上画像)は本市観光大使“谷口智則さん”が描かれたもので、四條畷市が詰まった作品です。☕ 4月

16日、英五さんの命日にアルバム発売記念ライブが開催され、私も応援しに行きました。

